

鹿児島学習定着度調査結果について

鹿児島市立広木小学校

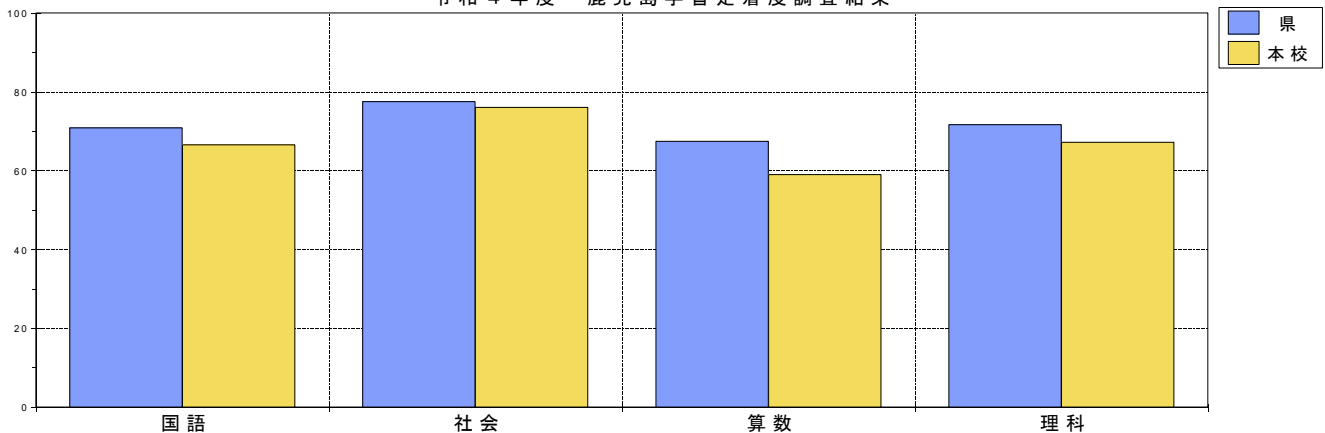
1月に県内の5年生の児童を対象として実施された、鹿児島学習定着度の結果が出ましたので、本校の実態と合わせてお知らせいたします。

なお本調査は、児童の基礎的・基本的な知識・技能や思考力等に関する学力状況の把握と児童の学習に関する意識や学び方などの学習状況を把握し、指導法の改善や児童の学力の向上を図ることをねらいとしています。領域や観点で通過率の低かったところは、その原因を分析し、日々の指導に生かしてまいります。

1 全体の結果 ◎…上回っている ○…ほぼ同程度 △…下回っている

	国語	社会	算数	理科
県（速報値）	70.9	77.5	67.4	71.7
本校（県との比較）	△	△	△	△

令和4年度 鹿児島学習定着度調査結果



○ 国語・社会・算数・理科と県平均通過率を下回っています。どの教科においても根拠を問う問題についての通過率が低い傾向があります。また、算数では「思考・判断・表現」の定着について、課題が顕著であり、対応を進めていきます。

【各教科の課題及び対応策】

○国語

「話すこと・聞くこと」の領域において、本校通過率54.5%（県通過率55%）と約半数の児童が回答できていない結果でした。このことは、自らの考えを言語化し、発表したり伝えたりすることを苦手とする児童が多いことにつながると分析しました。この領域の改善に向けて、「話すことや聞くこと」の学習の際には、自身が話したい、伝えたい内容を明確にしなが、根拠となる資料などをまとめ、それらと関連付けながら、言語化する場を設定するなどの授業づくりを進めていきます。

○社会

「地形・気候」の分野において、気温や降水量を記した雨温図のグラフの特徴から気候を読み取り、どこの地域のグラフであるかを見分ける問題において、本校通過率52.9%（県通過率61%）でした。グラフ読み取りに至る地域の気候の特色を示す知識理解だけでなく、それがグラフにおいてどのように示されるかについても、算数の学習とも関連を図りながら理解できるように授業づくりを進めていきます。

○算数

算数では、全領域において改善が必要です。全領域において、基礎となる知識・技能が定着しておらず、「思考・判断・表現」を問う問題においても通過率が下がる実態があります。改善に向けて、基礎となる見方・考え方を「なぜそうなるのか」「どのようにしたら求めやすいか」などの問いを大切にしながら、思考力・判断力・表現力を同時に高めるような指導を徹底した授業づくりを進めていきます。

○理科

「物質・エネルギー」の領域において、本校通過率62.7%（県通過率70.8%）でした。検流計の針の動きや音の伝わり方について特に課題が見られています。根拠のある予想や仮説を基に、実験の見通しをもたせながら、子供たち自身が実験を通して、根拠となる検証結果を表現できるような授業づくりを進めていきます。また、身に付けた知識と関連付けて思考することにも課題があるので、様々な問題に取り組みせたり、グループでの話し合い活動を充実させたりして、活動を工夫していきます。